

[講演要旨] [古代・中世]地震・噴火史料データベース

石橋克彦・古代中世地震史料研究会*

Online Database of Historical Documents on Japanese Earthquakes and Eruptions in the Ancient and Medieval Ages

Katsuhiko ISHIBASHI, Research Group on the Japanese Ancient and Medieval Historical Earthquake Documents

●表題のデータベース(以下、DB)は、昨年からβ版を静岡大学防災総合センターのサイトで公開している(<http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/erice/>)。学会発表や学会誌(地震ii, 61, 特集号, S509-S517, 2009)では紹介したが、本研究会ではまだ報告していなかったため、基本的なコンセプトと実際の機能をやや詳しく説明して今後の改善のためのご意見を頂きたい。

●このDBは、日本の古代・中世の地震・噴火および関連事象に関する既刊の文献史料のすべてについて史料学的・理学的検討を加えた結果を収録し、検索の便に供しようとする全文データベースである。収録対象期間は、便宜上、近世初期の1607年2月(慶長十二年一月)までとした。作成に際しては、次の既刊史料集を参照した。a. 武者金吉編(1941):増訂大日本地震史料, 第1巻, 文部省震災予防評議会(武者史料), b. 東京大学地震研究所編(1981, 1982, 1989, 1993):新収日本地震史料, 第1, 2巻, 補遺, 続補遺, c. 宇佐美龍夫編(1998, 1999, 2002, 2005):「日本の歴史地震史料」拾遺, 別巻, 二, 三, 四ノ上。なお、積極的な新史料収集はおこなわなかったが、既刊史料集に未掲載の史料も若干収録している。

●DBでは、一つの事象に関する情報の集合(事象レコード)は、事象番号、事象日(和暦・ユリウス暦・グレゴリオ暦を選択可能)、事象種別(地震、噴火、鳴動、その他)、綱文、史料群(文献名+史料本文の群)から成っている。その総数は約3000である。事象の概要を示す綱文は新たに執筆した。史料群では、文献名+史料本文ごとに史料等級を示しており、おおむね次の基準に従ってマークを付した:A. 基本史料(同時代史料), B. 参考史料(主として近世までに成立した史料), C. 主として明治以降に書かれた文献, D. 史料としては使えず削除すべきもの, E. 保留史料(未だ信頼性を確認できていない史料, 継続して検討中)。文献名の後には史料本文の確認に用いた刊本等が示してある。

●トップページから閲覧検索画面に行くと、事象番号・事象日・種別・綱文・史料数(文献の数)からなる一覧表が年月日順に表示される。これは、西暦年月日の範囲や任意の文字列によって選択(検索)可能である。事象番号をクリックするか、複数事象を選択してボタンを押すと史料本文が見られるが、標準では、史料等級がAとBの史料のみ、すなわち歴史学によって史料と認められるレベルのものだけが精選されて示される。史料等級がCとEの史料、およびそれらにしかよらない事象を見たいユーザのためには、エキスパートモードが用意されている。ただし、このモードでは、史料の信頼性が不確実であることと、それにもとづく事象の実在性も不確実であることに十分注意する必要がある(警告ウィンドウが現われる)。史料等級Dのものは本DBでは一切表示されない。標準モードの事象数は約2720である。

●本DBは、既刊地震史料集が抱える問題(内容の信頼性と活用のしにくさ)を抜本的に改善するために実施された科学研究費補助金による学際共同研究(2003~07年度)の成果に修正を加えたものである。まだバグや綱文の未完があって作業を継続中だが、既刊史料集の多くの不備が改善された。『大日本史料』の体裁の全文データベースが基本的に完成したことは、歴史系諸分野にも参考になると期待される。インターネットを介して関係者がデータを更新できる編集機能を備えていることも大きな特徴である。別に史料解題データベースを作りつつあるが、将来はリンクも考えている。今後大掛かりな事業による近世地震史料の本格的データベース化が切望されるが、それに対しても本DBが基本的指針を与えるであろう。

* 石橋克彦(代表;地震学・史料地震学), 小山真人(静岡大学教育学部/火山学・史料地震火山学), 佐竹健治(東京大学地震研究所/地震学・古地震学), 都司嘉宣(東京大学地震研究所/海洋物理学・史料地震学), 早川由紀夫(群馬大学教育学部/火山学・史料火山学), 榎原雅治(東京大学史料編纂所/日本中世史), 笹本正治(信州大学人文学部/日本中・近世史), 高橋昌明(日本中世史), 田島良哲(東京国立博物館事業部/日本中世史・史料学), 藤田明良(天理大学国際文化学部/日本中世史・東アジア交流史), 矢田俊文(新潟大学人文社会・教育科学系/日本中世史), 原正一郎(京都大学地域研究統合情報センター/情報工学・地域情報学), 前嶋美紀((株)まえちゃんねつと/システムエンジニア)。